

「無党派市民、勝手に立憲民主党パートナーズ・ちば東葛」 (略称：勝手にパートナーズ・東葛) 設立に向けて

私たちは「無党派市民、勝手に立憲民主党パートナーズ・ちば東葛」です。メンバーの多くは昨年の衆院選挙で立憲民主党へ1票を投じましたが、立憲民主党支持者というわけではなく、「無党派市民」です。憲法に基づいた民主政治が行われる、まっとうな社会の実現を願っています。

従来の選挙は各政党が候補者と政策を決めて、市民はその中から選ぶだけでした。市民がもっと日ごろから政党や議員・予定候補者とコミュニケーションを深め、政策づくりや候補者選びの過程から意見を言えるようになれば、より市民の願いが届く政治になると考えます。

私たちはこうしたコミュニケーションをあらゆる政党と取りたいと考えますが、まずは、「永田町の数合わせではなく草の根から政党を作っていく」という立憲民主党に期待します。

また、これまでの大きな政党の地方組織は、「県連」も「総支部」も、代表は国会議員がその候補者が大半でした。なぜ県議会議員や市町村議員でないのでしょうか。結局、政党の地方組織は、地方政治の主体ではなく国政選挙のための地方の手足と言わざるを得ません。これでは地方分権の担い手にならないのはもちろん、草の根からの政党づくりも不可能であると考えます。立憲民主党には、中央集権的ではなく分権型の政党と、そのための地方組織づくりを期待します。

さらに立憲民主党は、従来のサポーター、応援団、後援会といった組織ではなく、必ずしも支持者に限らない「パートナーズ制度」を設立することです。これは従来にない新しい発想であり、大いに期待します。

ただしパートナーとは対等な関係であるはずで、立憲民主党へ会費を払ってパートナーになり、名簿管理も事務も党にやってもらうのでは、従来のサポーターなどとあまり変わりません。

そこで私たちは本来の対等なパートナーシップをめざし、党から自立し、会の運営も財政も自ら行う「勝手にパートナーズ・東葛」を設立することにしました。この会を通し、多くの市民が立憲民主党（とくに自治体議員）と幅広い意見交換をできるようにし、市民の意見がどのように反映されるのかウオッチしていきます。

市民の側も、一人一人が自分の頭で考えて判断し、適切に行動したり、投票したりする力を育てていく必要があります。自分の要求だけを声高に叫ぶ市民ではなく、様々な立場の人たちと対話できる市民になりたいと思います。

ぜひ多くの皆さんのご参加をお願いします。

2018年4月3日

「無党派市民、勝手に立憲民主党パートナーズ・ちば東葛」参加者一同